

血まみれの臓器狩り/虐殺 最新報告

デービッド・キルガー/イーサン・ガットマン/デービッド・マタス

2016年6月22日

第一章 序文 (p.6)

デービッド・キルガーとデービッド・マタスが「血まみれの臓器狩り」を執筆し、イーサン・ガットマンが「虐殺」を執筆してから、私たち 3 人は引き続き、中国における臓器移植の濫用について、執筆、研究、調査、講演を行ってきた。私たちの活動については、共同のウェブサイト www.endorganpillaging.org を参照されたい。また、デービッド・キルガーがウェブサイト www.david-kilgour.com で、当問題に関する最新の情報と私たちの活動について報告している。

これまでの概要

『血まみれの臓器狩り』は三つのバージョンを経て発表となった。初版は 2006 年 7 月、更新版は 2007 年 1 月、第三版は書籍として 2009 年 8 月に出版された。初版のきっかけとなったのは、ある NGO から、アニー（仮名）と名乗る女性の証言に対する調査依頼を引き受けたことだった。2006 年 3 月 17 日付けの「大紀元時報」紙に掲載された記事の中で、アニーは次のような証言をしている。「私の家族の一人が、法輪功学習者から臓器を収奪する事業にかかわっていました」。2006 年 5 月、私たちは中国の法輪功迫害真相調査連盟（CIPF）から、臓器狩りの実態を調査するよう正式に依頼を受けた。

法輪功（ファールンゴン）は法輪大法とも呼ばれ、1992 年 5 月に李洪志という人物が教えを広め始めた。デービッド・キルガーとデービッド・マタスは、法輪功について「スピリチュアルで道徳的な基礎を持つ運動法である」と説明し、イーサン・ガットマンは著書『虐殺』の中で、「シンプルに言えば、仏教の復興運動である」と述べている。

1999 年、中国共産党は法輪功とその学習者たちを鎮圧することを決定した。それ以降、法輪功修練を続ける者は逮捕され、法輪功を辞めることを求められた。当局に従って法輪功の修練を辞めた者は釈放されたが、従わなかった者は、拷問を受けた。拷問を受けても信仰を捨てなかった者は、中国式のグラウグ（強制労働収容所）、監禁施設、精神病院、刑務所などへ強制的に送られ、行方が分からなくなった。

デービッド・キルガーとデービッド・マタスは報告書の中で、中国政府が発表した臓器移植の件数をベースに、臓器の供給源の数を推定した。それによれば、当局発表の年間手術数 10,000 件という数字を考慮すると、2000 年から 2005 年の 6 年間で、およそ 41,500 の臓器が法輪功学習者から摘出されたであろうと推定した。

一方、イーサン・ガットマンはキルガーとマタスが『血まみれの臓器狩り』で出した結論に対して、承認も否定もせず、検証するという方法をとった。ガットマンは中国政府が発表する臓器移植件数や病院への電話取材など、すでにキルガーとマタスが導き出した調査結果に依存せず、彼は独自に中国へ渡り、現地調査を行った。ガットマンと二人の調査人リーサイ・レミッシュ(Leeshai Lemish)、ジャヤ・ギブソン(Jaya Gibson)は、4大陸を渡り、6年の間に100人以上の関係者から話を聞いた。

ガットマンは著書『虐殺』の中で、2000年から2008年の間に、およそ9,000人から120,000人の法輪功学習者が臓器のために殺されたであろうと推定した。ガットマンはこの数字に自信を持っているが、記者会見では中間の数字を取り、少なくとも65,000人の法輪功学習者が臓器狩りの対象になったと述べた。この数字は、記者たちの間で広く受け入れられている。彼は数字の正確性に固執しているわけではなく、この悲劇を数字に当てはめて、状況を説明する必要があると感じたのである。

情報更新の必要性 (p.10)

私たちは、これまでの調査結果を更新する必要があると感じた。その理由は以下のとおりである。

第一に、私たちは独自に臓器移植の実施件数を割り出す必要があった。これまでの調査では、中国政府が発表する臓器移植件数をベースとして、臓器狩りの数を推定してきた。しかし、中国政府が発表する統計データが信頼できるとは限らない。実際に中国でどれだけの臓器移植が行われているのかを見極めるために、私たちは独自に調査を行った。

方法として、私たちは、臓器移植が行われている病院をひとつひとつ精査し、それらのデータを蓄積した。一部の病院は臓器移植件数を公表しているが、公表していない病院については、病床数、人材力、許容患者層、成長率、技術開発、学術論文の発表、メディア報道などから数字を割り出した。

中国のデータには偽造が多く、その中から正確な数字を割り出すのは困難を極めたが、私たちが推定する臓器移植件数は、政府発表の数字をはるかに上回る。

それでは、この膨大な臓器移植を可能にしている要因は一体何であろうか。私たちは、この報告書の中で、中国共産党が臓器移植にどれだけ関与しているのか、また臓器狩りを中心とした政権の仕組み、深く関与していると見られる一部の党幹部にも焦点をあてた。

また、この報告書では、これまでの調査で触れてこなかったプラスティネーションにも言及する。法輪功学習者が、臓器移植だけでなく、プラスティネーションのために殺されているという有力な証拠がある。中国での臓器移植を目撃する人は少ないが、プラスティネーションされた遺体が展示されているのを見たことがある人は多いはずだ。また、欧米では多くのプラスティネーションの遺体が人体標本として医療学校や大学などに寄贈されている。臓器狩りは目に見えないが、プラスティネーションの場合は、無実の人たちが殺害された事実を、目の前で、公に見ることができるのだ。

私たち 3 人は、この報告書の中で、次のような結論に達した。中国共産党は、国家ぐるみで、膨大な人数の法輪功学習者、またウイグル人、チベット人、家庭教会の信徒たちを、臓器のために殺害している。

(p.13)

私たちは、この報告書の中で、あえて具体的な数字を示していない。臓器移植の年間件数については数値の幅を割り出したが、数字を特定するには、変動的な要素があまりにも多いからである。また、私たちは臓器狩りの被害者の具体的な人数を発表する立場にはないと考える。

また、一人あたり、いくつの臓器が摘出されているのか、その平均値を特定することもできない。いくつかの証拠から、多くの場合、臓器の摘出数は一人あたりひとつであると私たちは理解している。中国では 2013 年まで、公式な臓器分配システムは存在しなかった。中国政府によれば、このシステムに登録されているのは、自発的な臓器提供者だけである。

私たちが言えることは、これまでに私たちが推定した数は、とてつもなく低かったということである。また、この人道に反する罪の終結について、まだ先が見えていないということである。

第二章 病院と医師 (p.14)

この報告書の主な焦点は、中国の臓器移植件数である。個々の病院と医師をひとつひとつ検証していくと、その特徴が浮かび上がる。

一番目の特徴として、当局発表の臓器移植の件数は、年間 1 万件であるにも関わらず、それはほんの一部の病院だけで簡単に超えてしまう数字である。しかし、実際は何倍も多いはずである。

二番目として、多くの病院は比較的新しく、新病棟を建設し、病床を追加している病院もある。このような発展は、臓器の継続的な供給の見込みがなければできない。中国における臓器ビジネスは、2001 年から伸びてきた豊富な臓器供給量だけでなく、この量が将来、恒久的に続くという自信と共に発展してきたのである。

三番目として、それらの病院は、数多くの優秀な人材を揃えていることが分かる。中国の臓器移植事業は、多くの人材を有している。人材への投資は、施設の場合と同じく、膨大な量の臓器が入手可能であることを証明している。その分野でキャリアを積もうとする人たちがいること、またそれらの職業に従事する人たちへ投資していることを鑑みれば、臓器供給の見込みが、過去や現在だけでなく、長期的にあるからであろう。

四番目として、中国の臓器移植のプロたちは、数多くの研修や研究を行っている。研究や研修は、臓器移植がなければ行うことができない。膨大な量の研究は、膨大な量の臓器移植を意味し、また、臓器が簡単に入手できることを物語っている。

五番目として、数多くの優秀な人材と施設の拡大、また活発な研究には、お金がかかる。中国における臓器移植とはお金、つまり潤沢なお金を意味している。

認可国立人民解放軍臓器移植センター(p.19)

人民解放軍 (PLA) は、国家というよりも、政党に属する世界でも数少ない軍隊である。中国共産党が中国を統制する上で利用する機関でもある。

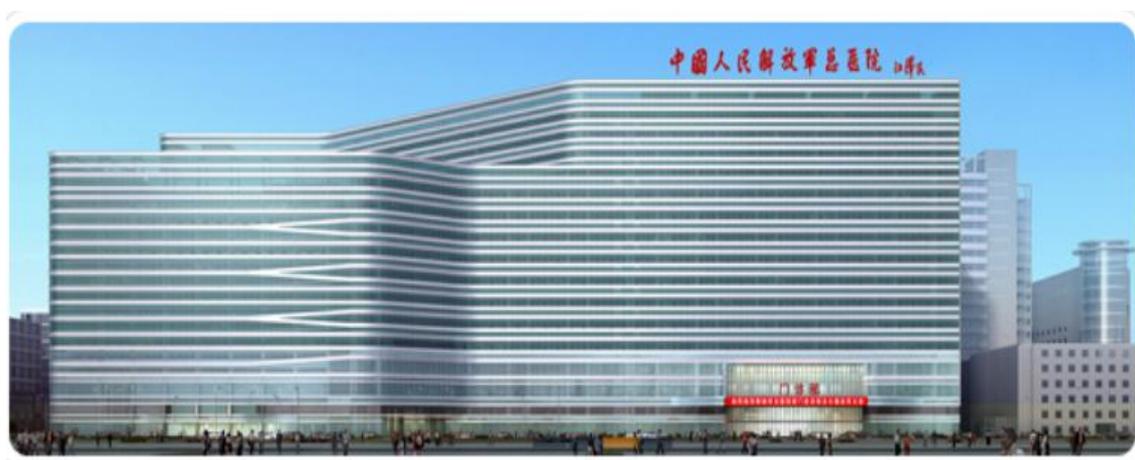
2000 年以降、中央軍事委員会の指導を受け、数多くの人民解放軍臓器移植センターが設立された。2008 年 12 月、人民解放軍総後勤部衛生部部長の張雁靈(チャン・ヤンリン)は新華社に対して、次のように話している。「1978 年、人民解放軍の中で腎臓移植ができる病院は

3 箇所しかありませんでした。今では 40 箇所の病院で、肝臓、腎臓、心臓、肺、または多臓器移植を行なうことができます」

法輪功に対する迫害を調査する国際組織 (WOIPFG) の調査によれば、軍と武装警察は 100 箇所以上の臓器移植センターを設立している。

また、2007 年に衛生部から認可された一部の病院のうち、トップレベルの 23 の病院では、生体移植が行われている。

中国人民解放軍総医院 (301 病院) (p.19)



写真：中国人民解放軍総医院 (301 病院) 外来診療部門

人民解放軍の病院の中でも最大級の総合病院である。医療のみならず、教育や科学的な研究も行なう。また、中国共産党中央委員会や中央軍事委員会を始めとするトップレベルの高官たちの健康管理を管轄し、特に腎臓移植については、国家の先駆けであると自認している。

高官専用だった 301 病院の南病棟は、2009 年 12 月より、県や省レベルのトップ、海外の VIP、各分野のエリートや有名人など上層階級に向けてサービスを始めた。

また、301 病院は、中国科学院と中国工程院に所属する 6 人のメンバー、100 人を超える三級レベル (将軍に相当する階級) の専門家、1,000 人を超えるシニアレベルの専門スタッフを抱えている。この中には、184 人の博士アドバイザー、293 人の修士アドバイザー、国営あるいは軍営の様々な医療委員会で理事や副理事を務めるスタッフ 180 人以上が含まれる。当病院は何年にもわたって、4,000 人以上の博士や修士の資格を持つ医療専門家たち、

10,000 人以上の臨床研修生、数万人におよぶ学生たちに研修を行なってきた。

さらに、当病院は 800 以上の研究プロジェクトを遂行し、国家、省、部級 1,300 以上の科学技術賞を受賞し、そのうちの 7 個は国家第一級、20 個は国家第二級の技術発展賞である。また、国内の科学技術の中核をなす科学技術ジャーナルを 23 種発行し、国内および海外で発表した論文の本数において、過去 4 年間トップの座を守っている。臓器移植の分野で活躍する国内・海外の組織 100 以上と提携を結び、200 人以上の客員教授を雇用している。

写真：海南島・三亜にある中央ヘルスケアセンター



301 病院の手術室に勤務していた医療スタッフによると、臓器移植は最も頻繁に行われていた手術であり、ほぼ毎日行われていたという。

当病院で肝臓移植を行っていたある手術医が 2006 年 4 月に調査人に語ったところによれば、臓器の供給源は「国家機密」であり、情報を漏らす者は、「それらの手術を行う資格を剥奪されるだろう」という。

当病院の臓器移植件数も、軍の機密情報である。しかし、309 病院の経理部門が公表する財務情報から、実情を垣間見ることができる。人民解放軍総医院臓器移植センター309 病院は、アーカイブされたウェブページで、次のように報告している。「我々の臓器移植センターは、収益を上げている

主な部門です。2003 年の総収入は 16,070,000 元でした。2004 年 1 月から 6 月の収入は、13,570,000 元でした。今年（2004 年）は、30,000,000 元を突破するかもしれません」。更に、当病院の総収入は 2006 年の 30,000,000 元から 2010 年の 230,000,000 元に跳ね上がり、4 年間でほぼ 8 倍も増加した。勿論、それらは通常、表向きの数字であり、過小報告していることにも留意しなければならない。

2007 年 7 月 4 日付け新華社の記事「人民解放軍総医院肝胆外科部の輝かしい歴史」は次のように伝えている。

第一級の技術と厳密な組織運営のもと、(当病院は) 肝移植手術、周術期管理、

また長期にわたる術後ケアの管理モデルを向上させてきました。肝移植患者の1年後の生存率は91.4%、3年後は80.2%、5年後は71.3%に達しました。当病院では、肝移植が日常的に行われています。肝胆外科主任で、最近では、肝移植における軍のリーダーの一人、董家鴻（ドン・ジャーホン）教授のもと、肝胆外科部はこれまでに500件以上の肝移植手術を行ってきました。

写真：中国人民解放軍総医院の国際メディカルセンター



5年間の生存率ということは、当病院が少なくとも2002年から定期的に肝移植を行ってきたことが伺える。また、董家鴻は、2006年まで当病院に移ってこなかったことにも留意したい。つまり、この外科部は、500以上の手術を、その年だけで行ったことを示唆してい

る。勿論、これは公表された数字に過ぎない。

また、301病院は、膨大な量の臓器移植をこなすだけでなく、臓器移植に関する技術的な問題の解決、臓器の供給、技術的なアドバイスなどの形で、市民病院をサポートしている。

人民解放軍総医院および第一軍医大学系列の腎臓移植センターと提携する益陽市人民医院腎臓移植センターの代表者は、「私たちは最高の腎臓を選んでいきます。ドナーの腎臓の総合的な検査を行い、適合する腎臓が最適な状態であることを保障します。患者の医療費は、省内外において、他の病院よりも低く設定しています」と述べている。

下の写真は、世界臓器移植協会（TTS）の医療事務元長官のフランシス・デルモニコ医師（Francis L. Delmonico）、WHO 専属アドバイザーが中国を訪れたときに撮影されたものである。陳竺（中国の大臣）、黄潔夫（衛生部副部長）、更に301病院から派遣された二人の軍幹部と一緒に映っている。この写真から、301病院が、中国の臓器移植の分野で非常に重要な役割を担っていることが伺える。



写真：2007年8月、国際的な臓器移植のコミュニティーのメンバーが、新しい臓器移植法に関するフォーラムに参加するため中国に集まった。

(※上記 301 病院のほか、原文には 150 以上の病院、臓器移植センターの詳細な情報が記載されている)

短い待機期間 (P.288)

発達した医療と臓器提供システムが構築されている国でも、患者は通常、数ヶ月から数年間待たなければならない。一方、文化的に臓器提供がタブー視され、また効率的な臓器提供システムが未だに存在しない中国において、患者は必要な時に、すぐに臓器を見つけることができる。つまり、中国には患者との適合を待っている、膨大な臓器ドナー・バンクが存在するということである。

中国政府系列の雑誌『鳳凰週刊』は、2013年11月に報道した記事の中で、過去10年の中国臓器移植ツアーの伸び、また異常に短い待機期間、オンデマンドで入手できる臓器の供給とマッチング・システムについて触れている。記事はさらに、中国における臓器移植件数は、アメリカを超えるとも言及している。

スクリーンショット：左は鳳凰週刊のオリジナルの記事（後に削除されている）。右は、アーカイブされた同記事（p.289）



最初の二段落は次のように述べている：

過去10年間、「臓器移植ツアー」の高まりと共に、信じがたいほど効率的に行われる臓器移植手術の実例がメディアで紹介された。ある医師は、一年あたり246件の肝移植手術を行った。ある患者は、48時間以内に、2度の腎臓移植手術を受けた。海外の医療専門家たちは、中国の膨大な臓器供給源について疑問を抱いている。日常的に行われる臓器移植は、難しい事ではない。本当に難しいのは、適合する臓器をどのように探すかである。国際的なコミュニティでは肝臓や腎臓を何年も待たねばならないのに、なぜ「奇跡の探索」が中国で起こりえるのか？

海外の医療専門家は、中国の臓器移植マーケットの現象について分析している。それによれば、中国には隠された、膨大な人数の臓器供給源、つまり生

きているドナー・バンクがあり、彼らの血液検査と関連書類は、すでに事前に整えられている。マーケットで「需要」があれば、彼らは「病院」（虐殺の家）に送られる……。

この記事はウェブサイトから削除されたが、私たちはアーカイブとして保存している。

2009年、イギリスにおける腎臓移植の待機期間の中央値は3.6年である。また、2002年～2006年の間のイギリスにおける成人腎臓の待機期間は995日、2005年～2009年は1,191日である。

2006年3月（法輪功学習者を対象とした臓器狩りが、初めて世界に公表された時）以前、中国では多くの病院のウェブサイトが、生きた肝臓や腎臓ドナーを2週間以内に保障すると謳っていた。一部の病院は、すぐに入手可能なドナーがいるとも明言していた。

フル稼働の臓器移植 (p.304)

a) 病床利用率

私たちは、多くの病床利用率が100%から200%であることを発見した。

例えば、鄭州市第七人民医院腎移植腎内科は、2015年3月31日に、次のような情報をウェブに載せている。46の病床（承認済み）に、70人あるいはそれ以上の患者が常に待機しており、病床利用率は「130%を超える」。腎臓内科は更に、「専門的な部門を設立してから、私たちは2,000件以上の腎移植を行いました。また、130件の親族間による腎臓移植を行いました」と伝えている。

蘭州軍区第474医院器官移植血液浄化センターは臓器移植のために、62床の病床と12床の集中ケア用の病床を備えている。病床利用率は、110%を超える。

蘇州大学附属第一医院の腎臓移植センターは、55床の病床を備え、一ヶ月あたりの入退院数は130と、101%の回転率である。2012年、当病院は1,170件の腎臓移植を行った。

遵義医学院附属医院は、肝臓、骨髄、角膜、幹細胞、またその他の移植も行っている。2012年、泌尿器科は51床の病床しかないにもかかわらず、常に100人前後の患者を抱え、病床利用率は200%に達した。その後、泌尿器科は病床数を100床まで増加した。

b) 病床の空きを待つ患者たち (p.305)

臓器移植センターの拡大にも関わらず、病床の空きを待つ患者数は増加している。需要が高まれば、病床利用率も高まり、臓器移植の件数も増えていくことになる。

三湘都市報 2012 年 11 月 10 日の報道によると、中南大学湘雅三病院では、1,000 人以上の患者が臓器移植を待っているという。

また、中国新聞が 2015 年 4 月 17 日に報道した記事によると、西安交通大学第一附属院腎移植センター所長の薛武軍（せつ・ぶぐん）所長が語った話として、1,000 人以上の患者が臓器移植を待っているという。

2011 年 1 月 20 日付け people.cn の報道には、次のような記載がある。「浙江大学附属第一医院では、緊急に臓器移植が必要な患者が 50 人以上待っている。(中略) また、天津第一センター病院の東方臓器移植センターでは、臓器移植のために登録している末期の肝疾患患者が 1,000 人は下らない…」

309 病院の人民解放軍臓器移植研究センター所長・石炳毅（シ・ビンイ）は、2013 年 9 月に行われた『東方周刊』とのインタビューで、同センターは毎年 5,000 人から 6,000 人の患者が移植を待っていると話している。

更に、2014 年 10 月の報道によると、殷州第二医院では、400 人以上の患者が腎臓移植を待っている。

c) 施設の拡充 (p.306)

増え続ける臓器移植の需要に応えるべく、多くの病院が新しい病棟を建設し、臓器移植施設を拡大している。その中には海外からの移植患者のために VIP 対応のアメニティーを充実させている病院もある。

24 時間フル回転で働く上海仁濟医院

1999 年 11 月、上海仁濟医院泌尿器科は、浦東（プードン）に新病棟と腎臓移植センターを開設した。病床数は 29 床から 70 床に増加し、新しい医療チームと分配システムにより、手術件数は 300% 上昇した。黄翼然（ホワン・イーラン）教授の指導のもと、泌尿器科は 70 床にも満たない中規模サイズであるにも関わらず、年間 5,000 件の手術をこなし、その

うちの 60%は大手術、あるいは超大型の手術である。患者の入院日数は平均 5 日である。

2016 年 3 月、陳哲穎（ちん・てついでん）医師は、『文匯報』の記者に次のように語っている。「大勢の、大勢の患者がいます！私たちは 24 時間ノンストップで、徹夜で手術を行っています」。手術病棟では、一日に 120 件の手術が行われている。手術時間はそれぞれ 4 時間かかるため、10 部屋の手術室が空いていたとしても、医師たちは夜遅くまで手術にかからねばならない。また、肝臓移植については、臓器が他の地域から夜遅くに届けられることが多く、明け方まで手術が行われることも少なくない。

「手術室は、まるで病院の中の秘密の花園です。私たちは、外の世界と接触する暇もありません。照明は一日 24 時間照らされ、ここでの夜 7 時、8 時は、朝のようなものです。昼夜の境も分からなくなります」と、陳哲穎は話す。長期間にわたって手術を継続するため、多くの医療スタッフが腰部疾患、頸椎症、静脈瘤を発症するという。

外の世界の人たちは、ここの現場がフル回転で働き、すでに許容量を越えていることを知らない、と手術スケジュールを見ながら黄翼然教授はため息をつく。「このうちの 3 分の 1 の手術は、他の場所で行われるべきなのです」

仁済医院肝臓移植センター主任の夏強によると、当センターは肝臓移植件数において、上海では 2007 年から 8 年間連続でトップを維持しているという。小児科臓器移植の件数においては、2012 年から 3 年間、継続して世界一にランクされている。

※その他、原文には 20 箇所以上の病院の拡充状況について、詳細な情報が記載されている。

d) 長時間勤務をこなす医師と看護師たち (p.314)

私たちは、多くの医療チームや個々の医師たちが、膨大な臓器移植の需要に応えるべく、非常に尽力していることに気がついた。外科医たちは臓器調達と手術のために遅くまで残業し、時には複数の移植手術を同時に行う。一般の外科医全員を動員し、臓器移植の研修を受けさせている病院もある。

24 時間の勤務体制

中南大学湘雅二医院泌尿外科主任の彭竜開（ペン・ロンカイ）は、2,000 件以上の腎臓移植を行った。この桁外れな数字から、医師が非常に多忙であることが伺える。

「移植医たちが 20 時間以上、継続して手術を行うことはざらである。彼らは 3～4 時間の休憩を取った後に、またそれを繰り返す。2～3 日の間に十数もの手術をこなす。過去には、一日に 9 つの腎臓手術を行ったこともある」

増え続ける仕事量 (p.314)

2008 年 4 月 10 日、看護婦長のチャン・チュンヤンは聊城人民病院のウェブサイトで、「私たちの心臓手術科の看護師たちは、通常的心臓手術のほかに、心臓、肝臓、腎臓、肺移植の術後処置も行っています」と述べている。

「ドナーの臓器は特殊なので、私たちは時に心臓、肝臓、腎臓移植を同時に行います。このため、私たちの仕事は 10 倍に増えました。すべてのスタッフは毎日、過剰な仕事量に耐えながら、努力を続けています」。彼女は、ひとつの例をあげた。「2005 年 10 月、私たちは心臓、肝臓、腎臓移植を一日で行いました。これは、私たちにとって大きな試練でした」

溢れる腎臓サプライチェーン

「もし私が病院にいないければ、私は腎臓調達所にいます。もし私が腎臓調達所にいないければ、そこから病院に向かっているところです」。これは、山東大学齊魯医院に勤める臓器移植チームの日常である。チームのメンバーはしばしば、1 週間から 2 週間ほど帰宅できないこともある。12 月 26 日付けのウェブサイトによると、「中国の臓器供給源に対する最近の国際的な批判を受けて、利用できるドナーの腎臓が劇的に不足しています。そのため、不確定な要素が増え、競争も激しくなっています。しかし、臓器移植科の主任・董来東（ドン・ライドン）と、血液浄化科の田軍らの懸命な努力により、腎臓移植件数は昨年を大幅に上回り、腎臓の待機期間も目立つほど長引くことはありませんでした」

e) 2006 年から引き続き成長する臓器移植 (p.316)

2006 年に臓器狩り問題が公になってから、中国政府は、臓器移植件数は徐々に低下していると示してきた。しかし、実際はそうではなく、2006 年以降、臓器移植ができる病院は引き続き増加していたのである。

新しい政府認可制度

中国政府は、無秩序な生体臓器移植マーケットを非難した。マーケットを「再認可し、規制する」ため、衛生省は移植センターの認可制度を導入し、2007年1月以降、認可されていない病院は臓器移植を行うことができなくなった。

2007年7月、1,000箇所以上の病院が認可申請した。そのうち、164の病院が認可された。

これは、政府が臓器マーケットを独占し、再分配できることを意味している。その結果、大きな臓器移植センターは競争に晒されず、以前よりもさらに拡大することが可能となった。

私たちは、一部の施設は認可されていないにも関わらず、臓器移植件数が減っておらず、また移植をやめるどころか公然と続けていることを発見した。とにかく、多くの病院が無認可であっても臓器を入手し、手術を続けることができた。

また、衛生省は認可されなかった病院に対しても、新たな機会を設けている。無認可の病院に対しては、心肺停止後の臓器提供(DCD)の試験的な導入を推奨した。病院は、少数のDCDを入手してから、再度申請するよう奨励した。

2014年までに、169の病院が認可された。新たに認可された5つの病院のうちのひとつは、佛山市第一人民医院で、同病院はDCDによる腎臓と肝臓移植を専門とする。2012年11月にアーカイブされたウェブサイトによると、同病院は認可される前から、腎臓、肝臓、心臓、肺、すい臓移植を行っており、さらには生体肝移植も行っていた。

ウェブサイトによれば、2004年12月28日、同病院は24時間以内に5件の腎臓、2件の肝臓移植を行った。2005年3月1日、臓器移植チームは2件の肝臓と6件の腎臓移植を午前11時から午後7時まで、8時間以内に完遂させている。2005年12月29日、この臓器移植センターは7件の腎臓移植を行った。

2006年にマラスとキルガーの報告書が発表されてから、同病院は臓器移植件数を公表しなくなった。しかし、2013年に認可されていることから、この病院は引き続き臓器移植を継続していたと言えるだろう。

新しく認可されたほかの4つの病院も同様であることが伺える。少なくとも75の無認可病院が2011年からDCDを試験的に導入し、引き続き臓器移植を行っていることが分かっている。

安定的な成長 (p.317)

党の統制下にあるメディアは、臓器移植の件数は低下しており、また臓器が不足しているため、病院はそれを維持することが難しくなっていると報道している。病院も、関連するウェブサイトや臓器移植件数に関する情報を削除・変更し、偽装したり、更新を停止したりした。

しかし、政府からのメッセージに反して、中国における臓器移植の規模は縮小しておらず、むしろ安定的な成長期に入っていると私たちは見ている。

中国政府は臓器移植の規模について、2006年以降は縮小していると発表した。たとえば、2007年12月18日、『南方週末』は「中国は臓器移植ツアーの停止を呼びかける」という記事の中で、アジア最大の天津東方臓器移植センターでは、2007年より臓器ドナー不足のため、手術件数が急激に減っていると伝えている。また、同年始め、センターでは15件の手術しかなく、それらはすべて親族間の臓器提供だったという。

しかし、ここで再度強調したいのは、同病院は500床の病床を有する臓器移植のための新病棟を2006年9月にオープンしていることである。臓器移植チームのメンバーも、7人から17人に増員した。それよりも7ヶ月前、2006年2月版『中国中西医结合急救雑誌』には、「東方臓器移植センターの新病棟は700床の病床を有し、(中略)現在では310人の医療専門家がいます。センターは引き続き肝臓と腎臓移植に集中し、総合的な臓器移植センターとしてアジア最大、また世界的に有名なセンターになる予定です」と記載されている。

2013年までに、同病院の全体的な病床利用率は131%に達した。拡大の必要性から、さらに300床の病床を追加し、臓器移植センターを含む複数の部門で分け合っている。

2011年2月28日、浙江大学第一肝臓移植センターは公式ウェブサイトで、「わが国の臓器移植ビジネスは安定的な成長期に入りました。鄭樹森(てい・じゅりん)院士の指導のもと、センターの肝臓移植ビジネスは繁盛しています。同センターは、2007年に新しいビルに移転しました。肝臓移植はより組織的に、専門的に、そして大規模になっています」と伝えている。

第三章 臓器移植の膨張を加速させるもの (p.344)

臓器の需要と増大する移植患者

中国には、1億3000万人のB型肝炎キャリアがいる。また、世界の肝臓ガン患者の40%～50%は中国人であり、年間あたりの世界の肝臓ガン患者の半分以上（およそ350,000人）は、中国人である。そのうち、末期症状の8百万人（肝不全、肝硬変、肝臓ガンを含む）にとって、最も効果のある治療法は臓器移植である。

「杭州基準」や「上海復旦基準」が設定されたことにより、それまでの規制が緩和された。それまでは、ミラノ基準や国際基準により、肝臓移植を受けるには、腫瘍の直径が5センチあるいはそれ以下であることが条件だった。その後、杭州基準では8センチとなり、復旦基準では9センチとなった。その結果、潜在的な肝臓の移植患者の数は40%増加した。中国に効率的な国家の臓器提供・分配システムは存在しない。専門家が2010年に推定したところによると、300,000人が肝臓移植を待っているという。

中国の公式な臓器移植のウェブサイトによると、中国には世界のどの国よりも多くの肝疾患患者がおり、WHOは、およそ一億人いると推定している。中国人研究者たちは、400,000人近くが肝臓ガンで亡くなっており、世界の肝臓ガンによる死亡者数の半分以上を占めると述べている。また、研究者らは、中国のおよそ3億人が、なんらかの肝疾患を患っていると指摘している。

2004年、中華医学会器官移植学会主任委員で同済医科大学器官移植研究所副所長の陳実（ちんじつ）教授は、中国には数百万人の末期腎臓疾患患者がおり、そのうちの500,000人は腎臓移植を待っていると述べている。この数字は、120,000人ずつ増えている。最新の公的なデータによれば、中国では毎年100万人の患者が腎臓移植を待っている。

また、中国には1千万人以上の心臓疾患患者がおり、毎年2百万人以上が末期の心臓病で死亡している。

更に、世界移植者スポーツ連盟（World Transplant Games Federation）によると、中国には4百万人の白血病患者が骨髄移植を待っており、4百万人が角膜の病気を患っている。2012年、アイバンクの創設者で広東省アイバンクの主任を務める陳家祺（チェン・ジャーチー）は、毎年300,000人から400,000人の角膜移植が必要とされていると話した。

病院の資金 (p.345)

政府援助から独立の道へ

中国における社会主義から市場経済への移行は、医療制度に対する補助金の削減を意味した。移行前は、政府がすべての病院を所有して資金を賄い、医師たちは皆、公務員だった。

市場経済にシフトしてから、このシステムは崩壊した。1978年から1999年にかけて、北京政府の医療関連への支出額は32%から15%に減少した。1990年から2002年の間、地方の医療機関の収益のうち、政府からの補助が占める割合は概ね60%から42%に減った。

その結果、多くの病院が民営化し、サービスを提供することにより、収入を得なければならなくなった。デービッド・ブルーメンタル(David Blumenthal)とウィリアム・シャオ(William Hsiao)は、「公的な医療機関は利益を追求するようになり、収益に固執するようになった」と書いている。

心臓血管医・胡衛民によれば、彼の勤務している病院への国家予算は従業員一ヶ月分の給与にも満たないという。彼は、「現行システムでは、病院は生き延びるために収入を探さなければならない」と述べている。中国人権報告によれば、地方の病院は「維持するための収入を得る方法を作り出さなければならない」という。

一方、政府は予算を削減すると同時に、基本的な医療サービスの料金を統制した。この料金統制は包括的ではなく、新しい技術や新薬などは含まれていない。また、医師の給与は病院の収益によるボーナス制度も導入されるようになった。ブルーメンタルとシャオは、「その結果、高価な薬と高い技術サービスの提供が爆発的に増えた」と書いている。

これらの変革が、病院を臓器移植、この新しいテクノロジーへと駆り立てた。臓器移植は料金統制を受けず、私的な収益を上げ、また免疫抑制剤を必要とするからである。中国の病院では、臓器移植が主な収入源となった。解放軍第309医院臓器移植センターは、大胆にも次のようなコメントをウェブサイトに掲載している。「臓器移植センターは、我々の主な収入源である。2003年の総収入は、16,070,000元。2004年1月から6月までは13,570,000元。今年(2004年)は、30,000,000元を突破する可能性がある」

2015年3月付け『世界新聞網』によると、黄潔夫の話として、肝臓移植は少なくとも600,000元、腎臓の場合は300,000元以上かかるという。2006年末、黄潔夫は『財經』の中で、「臓器移植は、病院が収益をあげるための手段として流行している」と述べている。

第四章 腎臓移植と肝臓移植の総件数 (p.371)

国家機密

最近の臓器移植件数について聞かれると、中国政府は年間 10,000 件だと答える。ここを読んでいる時点で、読者はお分かりだと思うが、10,000 件という数字がまじめな数字ではなく、中国の医療機関が臓器供給源についての質問をはぐらかすための、単なるゴミのような数字であることを理解すると思う。欧米諸国は、主権国家の医療統計について質問することに慣れておらず、また中国の医療団体を刺激しない方法で中国の臓器移植を改革しようと躍起になっているため、お付き合いとして、10,000 件という数字を額面どおりに認めているのだ。

もちろん、倫理的な世界では、正確な臓器移植件数を提示する責任は中国にあり、私たちではない。しかし、私たちは、そのような世界に住んでいるわけではない。

しかしながら、この報告書にある一握りの病院のプロファイルの数字を加算していけば、10,000 件という数字を簡単に超えてしまうことが分かる。従って、私たちは、単純にこの膨大な量を新しい情報として提示するだけでなく、それを数字に換算した方法も提示する責任があると考えた。一握りの非常に効率的な臓器移植センターを簡単に計算したところで、実際の年間あたりの臓器移植件数を割り出すことはできない。私たちがその他の病院、例えば従来型の病院やセンターを含めるとしたらその数はどうなるだろうか？

中国では、死刑囚の人数は国家機密である。死刑囚から摘出された臓器の数も、国家機密である。臓器の供給源の性質から、金銭的な報酬の説明はなく、また臓器移植件数は、地方の病院や個々の医師へと下へいくに従って、改ざんされていく。従って、中国における臓器移植の実際の実施件数は、永久に明かされないままである。

方法論 (P.372)

臓器狩りという犯行が現在も進行している状況で、実際の数字を割り出すというのは、遥か遠くに薄暗くひかる星の光を探索するのに近い。私たちは、それらの病院の移植件数を直に見ることはできないが、それらの規模、成長の記録、病院の病床数と病床利用率、またそこに勤務する専門スタッフの人員から、数値の範囲を特定することができる。更に、政府が発表する規定事項が、中国の臓器移植施設の数特定するのに役立つ。

当局が積極的に病院のウェブサイトから情報を削除し、秘匿と偽証が常である現在の中国の状況では、具体的な年間あたりの臓器移植件数やその近似値を割り出すことはできない。しかし、常識的な計算方法を構築し、推定値を透明化することならできる。不完全なデータを

もとにしているが故に、私たちの計算方法が正確さに欠けたような印象を与えるかもしれない。そこで、私たちは数字を比較するために、いくつかの簡単な計算方法も記載した。それらは、一般の読者にとっても透明性があると思う。

中国にいる専門家は、「血まみれの臓器狩り」が、数字について「およそ」とか、「概ね」といった言葉を使っていることに対し、公然と批判している。私たちは、彼らの批判より、いかに読者に誤解を与えないようにするか、という方に興味がある。私たちは、それらの不正確な数字を避けるために、そのような言葉を使う。従って、私たちはそれらの単語を使い続けるし、計算した数字を提示するのと同時に、それらを大まかな数字で括っている。

最低条件に基づく臓器移植の件数 (p.372)

私たちは、当局が要求する最低条件をクリアした認可臓器移植センターの状況を見て、712箇所¹の肝臓・腎臓移植病院で行なわれている臓器移植件数を割り出した。

衛生省の認可を受けた 146 箇所の病院

肝臓・腎臓移植の認可を受けた病院について、必要最低限の病床数を保持していることを条件に、手術件数の最低値を計算した。

2006年6月27日、衛生省は「肝臓、腎臓、心臓、肺移植に関する管理規制の通知」の中で、臓器移植を行なう医療機関には、以下のような条件を課すとしている。

- 肝臓： 肝臓移植専用の病床 15 床と、最低 10 床の I C U 病床
- 腎臓： 腎臓移植専用の病床 20 床と、最低 10 床の I C U 病床

肝臓あるいは腎臓移植が許可された 146 箇所²の病院（国家レベルの市民・軍臓器移植センターと指定された臓器移植センター）について、最低限の病床数は、以下のようになる。

Table 10.1: 衛生省が規定する必要最低限の病床数

臓器移植タイプ	病院	臓器移植の必要最低限の病床数	I C U の必要最低限の病床数	必要最低限の病床合計
---------	----	----------------	------------------	------------

肝臓	21	15	10	25
腎臓	65	20	10	30
肝臓と腎臓	60	35	20	55

一ヶ月の入院期があると仮定すると、個々の病床は年間 12 人の患者が利用できる。実際の入院期間は通常、腎臓移植が 1~2 週間、肝臓移植が 3~4 週間である。私たちは腎臓と肝臓移植を一緒にして計算しているため、最長の入院日数を私たちの平均値とした。

私たちが調査した 165 箇所の病院については、臓器移植センターの病床利用率が 100% を超え、大勢の患者が手術を待っており、病床や施設の不足は広範な問題である。更に、黄潔夫は認可病院の数を 169 から 300 に増やそうと計画しているので、現在の容量ではすでに需要に対応しきれないことを物語っている。従って、現在の大多数の施設は、臓器移植に利用されていると推定した。

病床利用率が 100%だと仮定して、これらの 146 の病院の数を加算していくと、理論的には年間 69,300 件の臓器移植手術が行われたことになる。

中国では、2000 年以降、肝臓移植は徐々に日常的な臨床診断となった。その直前には、すでに腎臓移植が大規模に行なわれるようになっていた。それまでは、数箇所の腎臓移植センターだけで 1,000 件を超す腎臓移植が行われていた。多くの肝臓移植センターでは腎臓移植も行なわれるため、腎臓移植が増加した結果、肝臓移植件数の伸びが比較的遅れたのである。

従って、私たちは臓器移植が爆発的に増えた 2000 年を除外し、認可病院の年間手術数を 15 年で掛けて計算した。この方法で計算すると、15 年間に行なわれた臓器移植の総合計は、1,039,500 件である。

Table 10.2: 146 箇所の認可臓器移植病院が衛生省規定の病床数を最低限満たしたことを条件に割り出した臓器移植の総合計

臓器移植タイプ	病院	必要最低限の病床数	一病院あたり年間臓器移植件数	年間臓器移植件数	年数	合計
肝臓	21	25	300	6,300	15	94,500
腎臓	65	30	360	23,400	15	351,000
肝臓と腎臓	60	55	660	39,600	15	594,000
合計	146					1,039,500

566 の無認可病院 (p.374)

1,000 箇所を超える病院が申請したのに対し、認可されたのは 164 箇所であったが、実際は無認可の病院 566 箇所が臓器移植を行なっている。衛生省に認可されていなくとも、多くの施設では臓器移植を停止せず、また一部の病院の臓器移植件数は顕著である。認可病院に比べて、無認可の施設はより柔軟に、様々な経路を通して生きた臓器供給源にアクセスし、臓器狩りを行なうことができる。また、数十箇所の無認可の軍病院、武装警察病院は衛生省の規制を受けず、通常通り臓器移植を行っている。なぜならば、彼ら自身が豊富な臓器供給源を管理しているからである。彼らは、衛生省や地方政府の規制を受けず、軍は病院にある人民解放軍臓器施設センターを指定病院としている。

405 箇所の大規模な無認可の軍・市民病院

すべての 3 A の施設は大都市にあり、500 床以上の病床を備えている。私たちは、中規模都市にある施設で 3 ヶ月に 100 件以上の臓器移植が行われているケースを知っている。このペースで手術が行われると仮定すると、同施設では年間 400 件の手術が行われていることになる。405 箇所の病院すべてが 3 A にランクされており、大規模な容量で膨大な需要に応えている。しかし、個々の病院によって手術数にばらつきがあることを考慮し、我々は大規模な病院に対して、年間手術件数を 100 件とした。

161 箇所の中規模の病院、および「代替」の無認可臓器移植病院

このグループには、161 箇所の中規模な臓器移植施設、55 箇所の病院（クラス 3、グレード B）、106 箇所の病院（クラス 2）、およびその他の臓器移植を行なう小規模な病院が含まれる。これらの病院は通常、肝臓と比べて高度な技術を必要としない腎臓移植を行なう。これらの病院の多くは最低件数をはるかに上回る手術を行っており、そのうちの一部は年間数

百件を超える病院もある。

衛生省が 2007 年に 164 箇所の認可臓器移植センターの名簿を発表するまで、中国全土の臓器移植を評価し、資格を与えるのは様々な政府部門だった。たとえば、2003 年、広東省において腎臓移植の許可を得るには、年間 50 件の手術数をクリアしなければならなかった。2003 年の 9 月から 12 月の間に、30 箇所の病院が腎臓移植、また 17 箇所が肝臓移植の許可を得た。私たちは、これら中規模の無認可臓器移植センターについて、年間手術件数を 50 件とした。

566 箇所の無認可病院の合計

豊富な臓器供給源を管理している軍は、2007 年に導入された臓器移植認可制度の規制を受けず、軍属の臓器移植センターは、引き続き臓器移植を行ってきた。多くの無認可の市民センターも 2007 年以降、引き続き臓器移植を行っているが、個々の状況は様々である。従って、2007 年以降、無認可病院が臓器移植を停止したと仮定し、それらの手術年数を 7 年間として計算した。

その結果、無認可臓器移植センターを合わせると、年間 48,550 件の手術を実施することができ、7 年間では、合計 339,850 件となる。

Table 10.3: 必要最小限の数に基づいた無認可病院による臓器移植件数

病院のタイプ	病院の数	一病院辺りの年間移植件数	年間移植件数の総合計	年数	合計
無認可の大病院	405	100	40,500	7	283,500
無認可の中規模病院	161	50	8,050	7	56,350
合計	566				339,850

最低条件に基づいた 712 箇所の病院の合計(p.375)

認可病院による 1,039,500 件の臓器移植件数と、無認可病院の 339,850 件を合計すると、およそ 140 万件という数字が出る。これは、年間 90,000 件という数字に置き換えられる。
Table 10.4: 認可病院と無認可病院が、衛生省が規定する必要最低限の病床数を満たしていることを条件に割り出した臓器移植の総件数

病院のタイプ	病院の数	年数	合計
認可病院	146	15	1,039,500
無認可病院	566	7	339,850
合計	712		1,379,350
			~140 万件 (~年間 90,000 件)

この分析結果は、衛生省の認可制度が要求する最低限必要な病床数に基づいて導き出された。衛生省から許可されたのは 164 箇所のみだったが、その多くは、最低限の病床数で賄える手術数をはるかに超える量の臓器移植手術を行っている。また、1,000 箇所以上の病院が認可を申請しているということは、彼らがこの基準を満たしているか、あるいはほぼ満たしていると考えるのが妥当である。

単純な計算法で割り出した臓器移植の総数 (p.376)

この報告書では、あえて中国政府の主張を選択して使用することを避けてきた。私たちは、これらの病院ひとつひとつを検証し、最低限の病床数を備えているかどうかを確認していない。恐らく、衛生省がそれを行なったと考える。しかし、衛生省の承認手続きについて実証することは難しい。更に、汚職がその過程にあることも否めない。なぜなら、多くの政府の承認手続きがそうだからである。従って、用心深い読者にとって、政府が設定した最低病床数に基づいて推定した数値は、完全に正確ではないと言うのは、妥当である。

従って、これまでのデータを忘れて、もう一度最初から計算してほしいという読者もいるだろう。また、読者がここまで読んできて、常識の範囲内で考えられる最低値に思い当たったかもしれない。しかし、報告書に掲載した証拠の累積による結果は、数字にたどり着くわけではない。明らかに、中国の臓器移植システムは競争力があり、国が後押ししており、我々が以前認識していたより遥かに効率的である。要するに、臓器移植に従事する人々は、皆ハード・ワーカーである。

従って、ひとつの計算法としては、一人の医師が、国家レベルの臓器移植センターで、年間どれだけの手術をこなせるのか、というマイクロ・レベルから見ることもできる。たとえば、2013 年の報告によると、ある外科医は 246 件の臓器移植手術を行ったと供述している。週末や休日を差し引くと、年間出勤日数は 250 日であり、医師は一日に一回の手術を行ったことになる。この外科医は明らかにハード・ワーカーだが、そのスケジュールはそんなに際

立っているわけではない。なぜなら、必要な囚人はグループで入手できるし、また手術も通常、ひとまとめに行われるからである。外科医たちは、一日に2~3件の手術をこなし、数日間手術を全く行わないこともあると思われる。臓器移植チームは週末や休日も勤務しており、臓器供給源が豊富だったり、不足していたりすることを鑑みれば、国家レベルの臓器移植センターは一人の外科医で賄っているわけではないことが分かる。このようなセンターは、最低でも2つか3つの臓器移植チームがあるだろう。

そこで、私たちは常識的な命題を前提とし、究極の最小値を臓器移植センターの平均値とした。一日一件、年間365件の手術件数である。

衛生省が認可した臓器移植センターの平均手術数が一日一件というのは、信頼できる数字だろうか？平たく言えばイエスだが、それは懐疑的なアプローチに固執している場合の話である。たとえこの報告書をまったく読んでいない人であっても、一日一件という臓器移植の数字は非現実的に高いぞ、と否定するのは極めて難しいであろう。規模の違いを考慮して、私たちは国家レベルの市民・軍臓器移植センターが、平均一日一件の手術を行うと仮定し、その他の指定されたセンターでは二日に一件とした。また、認可病院の増加期間については様々な意見があるので、センターの経営年数を15年ではなく14年間とした。更に、大規模な無認可臓器移植センターは一週間に二件、中規模な無認可臓器移植センターは一週間に一件の手術を行ったと仮定した（更に、これらのセンターの経営年数を7年間とする）。

Table 10.5 最低値のシナリオ：2000年以降、712箇所の臓器移植センターで行われた移植件数について、簡単な計算法で割り出した推定値

病院のタイプ	病院の数	一病院辺りの年間移植件数	年数	合計
国家レベルの市民臓器移植センター	55	365	14	281,000
国家レベルの軍臓器移植センター	23	365	14	118,000
指定された臓器移植センター	68	168	14	160,000
無認可の大規模臓器移植センター	405	104	7	295,000
無認可の中規模臓器移植センター	161	52	7	59,000
臓器移植の合計				~900,000

年間あたり平均臓器移植件数				~60,000
---------------	--	--	--	---------

最低値のシナリオでは、臓器移植件数は15年間で百万件を少し下回るほどで、年間90,000件ではなく、60,000件である。先の章で述べたが、712箇所の臓器移植病院が政府の条件基準を満たした場合、最低140万件の手術が行われた計算になる。この数字は、146箇所の認可臓器移植センターが、15年間で行った100万件の臓器移植件数を含む。これは、一病院あたり年間456件の臓器移植が行なわれたという計算になり、あるいは簡単に計算すると、一病院あたり1.25件の臓器移植である。要するに、数字の違いは思っていたより目立つものではないということである

しかし、私たちはデータに熱中するあまり、最低値のシナリオや、最低条件のシナリオが、控えめすぎると感じるのは致し方ない。なぜならば、両方とも、非常に効率的な臓器移植センターを考慮に入れていないからである。例えば、ほとんどの国立臓器センターは、年間1,000件以上の手術を実施することが可能である。その一部は、4,000件から8,000件も可能である。例えば、北京309病院は、393床の病床を保有し、年間4,000件の臓器移植を行なうだけの能力がある。市民病院の場合、天津中央病院東方移植センターは、500件の臓器移植用の病床があり、病床利用率は131%と主張している。これはつまり、一年あたり最低でも8,000件の手術をこなす能力があるということである。また、上海肝胆道手術センターは、742床の病床を有していたが、後にこのセンターは新キャンパスへ移転し、さらに拡大している。

最低条件に基づいたシナリオの場合でも、臓器移植センターの資源の平均値はそんなに厳しい要求ではない。年間456件の臓器移植を行なおうとすれば、入院期間を30日と仮定すると、40床に満たない病床数でも間に合うからである（または、20日の入院期間で25床の病床、なぜなら多くの病院は臓器クリニックを開設し、それらは入院期間を大幅に減らしているからである）。

ウェブ上に掲載している病床数が異常に少ない病院の場合、我々の調査人は病院に電話をかけて確認し、録音した。一部の病院は、必要な病床は後で調達できると述べた。また、肝臓移植患者が滞在する数箇所の病院、例えば西安交通大学や復旦大学器官移植センターでの入院期間は通常2週間以下である。

臓器移植手術は、移植専門センターと、一般外科でも行なわれる。情報を入手した病院については、移植専門センターの病床数と、臓器移植が行なわれていると思われる肝胆道科および泌尿器科の病床数も加算した。

そこで、ひとつの疑問が出てくる。一般外科のどのくらいの割合の病床が臓器移植のために利用されているのか。2006年に発表された衛生省の「肝臓、腎臓、心臓、肺移植手術の管理規制についての通知」では、移植専門センターではない外科に対し、次のように規定している。

- 肝胆道手術科：合計 80 床、あるいはそれ以上の病床数で、そのうちの 15 床は肝臓移植専用の病床であること。また、最低 10 床の ICU 病床を備える。
- 泌尿器手術科：合計 40 床あるいはそれ以上の病床数で、そのうちの 20 床は腎臓移植専用の病床であること。最低 10 床の ICU 病床を備える。

ICU 病床を除外して、上記の規定は、一般外科のほぼ 20%の病床を肝臓移植用に、50%を腎臓移植用に利用していることになる。また、私たちは、臓器移植専門と、一般外科との境が薄れてきていることにも留意しなければならない。なぜならば、ここ数年、いくつかの病院が名目上、臓器移植専門センターを一般外科に吸収しているのを見てきたからである。恐らく、臓器移植専門センターの容量に対する調査の目をかわすためであろう。

私たちのデータは公開されている情報を集めてきたものであり、それらの病院の臓器移植センターの規模について、過小評価してしまうことは十分あり得る。更には、これらの臓器移植センターが更に病床を増やし、あるいは必要に応じて他から病床を借りてくることもあり得る事から、上記の病床数は必ずしも絶対的ではない。

最後に、私たちが分析した病院は、臓器移植に重点を置いている。多くの臓器移植は彼らの主要な技術となり、また最も儲かる医療活動である。少なくとも 50 箇所の病院長は臓器移植の専門家、また同時に臓器移植団体の理事長でもある。

それらの要素を考慮し、私たちは認可病院における数字を 2 倍にすることにした。国家レベルの市民・軍病院の臓器移植センターは一日二件の手術を行ったと仮定し、その他に指定された臓器移植センターは一日一件とした。

Table 10.6 最高値のシナリオ：2000 年以降、712 箇所の臓器移植センターで行われた移植件数について、簡単な計算法で割り出した推定値

病院のタイプ	病院の数	一病院辺りの年間移植件数	年数	合計
国家レベルの市民臓器移植センター	55	730	14	562,000
国家レベルの軍臓器移植センター	23	730	14	235,000
指定された臓器移植センター	68	336	14	320,000
無認可の大規模臓器移植センター	405	104	7	295,000
無認可の中規模臓器移植センター	161	52	7	59,000
臓器移植の合計				~1,500,000
年間あたり平均臓器移植件数				~100,000

その結果は、15年間で150万件である。それは、一年あたり100,000件という数字になる。私たちは、この報告書にあるデータが、この数値を十分に弁護できるし、桁外れの数値ではないと考える。そして、ここで3つ目のシナリオを考えるとしよう（なぜならば、私たちは現実からだまされているのだから）。再度、一日あたりの数字を2倍にすると、`私たちは15年間で、250万件という数字にたどり着く。それは、年間およそ170,000件である。

私たちがこれを述べるのは、現在、この数字を証明するだけの証拠が完全にそろっているからではない。それは、いつか表に出てくるだろう。現在、私たちは年間手術件数の範囲を60,000~100,000件であるとみなしており、これよりも高い数字を強調したい。しかし、どの数字が真実を映し出しているのか、その判断は読者に任せたい。読者には、独自に計算することを勧める。なぜならば、これがこの問題に対する最終的な結論だと我々は主張しないからである。

第五章 プラスティネーション (p.394)

2005年11月19日、「人体：展示会」がニューヨークのマンハッタンで、米企業プレミア・

エキシビジョンの後援により開催された。展示されていたのは、皮膚を剥がされた 22 の遺体と 260 個の本物の臓器の標本であり、それらは組織液を抜かれ、シリコンを注入されていた。

展示会の目玉の一つは、若い母親とお腹にいる胎児である。中国の法律では、妊娠中の女性を死刑に処することができない。一体どこの誰が、不幸にも亡くなった自分の妻と、生まれてこられなかった赤ん坊を、展示会に提供するだろうか？この人間の標本は、一体どこから来たのだろうか？この展示会はどのように成り立っているのだろうか。

写真: 自分の皮膚を持つ人体標本（左）とお腹に胎児を抱える母親の標本



この展示会は、ニューヨーク、ラスベガス、アトランタ、ロス・アンジェルスを周り、そのほか世界各地で長らく開催された。2006 年、ニューヨーク・タイムズは、2 千万人が展示会に訪れたと報道した。主催者によると、人体標本は大連医科大学から提供されたものであり、ドイツのグンター・フォン・ハーゲンスが発明したプラスティネーション処理が施されているという。大連医科大学解剖学研究室副主任で、大連医科大学生物プラスティネーション社のジェネラル・マネージャーを務める隋鴻錦（スイ・ホンジン）は、「誰も、彼らが誰であるのかを見分けられない」と説明している。

大連の人体プラスティネーション工場

人体のプラスティネーション技術とは、液体の代わりに、シリコン、エポキシ樹脂、その他ポリマー合成物を注入することである。プラスティネーション技術はさておき、標本を製作するのに困難なのは、新鮮な人体を入手することである。法医学によれば、人体の「新鮮な期間」は、二日間である。

2002年6月、隋鴻錦とパートナーたちは、「大連医科大学生物学プラスティネーション」という会社を設立した。2004年、隋鴻錦は「大連鴻峰生物科学技術有限公司」という別会社も登録した。この会社の主なビジネスは、人体標本の製作と展示である。

隋鴻錦は地元で、新鮮な人体をあらゆる経路から調達できた。王立軍の臓器移植センターがある錦州市から大連までは、車で4時間である。王立軍は、薄熙来の子飼いであり、右腕である。薄は1993年から2000年まで大連市の市長、2000年と2001年に遼寧省の党委員会副書記を務め、その後は遼寧省の副市長、2002年には遼寧省の市長に就任した。その間、彼は10億元を投資して同省の刑務所の拡大を図り、新しい大規模な刑務所施設を建設した。隋鴻錦の人体工場の近くには、遼寧省第三刑務所、大連南関嶺刑務所、大連労働キャンプ、また姚家看守所（収容所）がある。

2003年11月27日、『眺望東方』の第二版に、「人体工場の調査」という記事が掲載された。それによると、プラスティネーション工場は大連のフォン・ハーゲンスと隋鴻錦の会社だけでなく、広州、上海、南京、青島、深セン、泰安などさまざまな場所にあり、人体標本において、中国は世界一の輸出量があるという。2012年8月23日付け『南方都市報』は、中国では数十のメーカーが人体標本に従事していると報道している。

人体の身元についての警察の主張 (p.397)

『南方都市報』の記者が、標本になった遺体の身元について隋鴻錦に尋ねた。すると隋は、「遺体は（大連）医科大学の検視から来たものだ。身元については、『記録のない遺体』と示されている」

1979年2月22日に衛生省が発表した解剖に関する通知によれば、一ヶ月を過ぎても引き取り手が現れない身元不明の遺体は、当局や警察署の承認を得た後に、医科大学などで利用することができる。一ヶ月を過ぎた遺体を利用するのであれば、防腐処理を施さなければならない。そうでなければ、10～23日後には、身体は髪の毛、皮膚、軟骨、骨だけが残っているであろう。

展示されている遺体は、死後 2 日の間にプラスティネーションを施されている。従って、隋鴻錦が利用している遺体は、記録のない遺体のはずがないのだ。2012 年 8 月、隋鴻錦は『南方都市報』で、次のように同意している。「大連鴻峰社が設立した初日から、我々が提供してきたプラスティネーションの標本は、死刑囚から来たのではない、一人もいない。「現在、我々のプラスティネーションの標本はすべて、ドナーからきたものではない。「それらはすべて、病院で亡くなった身元引受人のいない人たちである」

2008 年、ニューヨーク州の弁護士 の 要 請 に よ り、展 示 会 を 主 催 し た プレミア・エキシビションは公式ウェブサイトおよびニューヨークの展示会サイトに免責事項を掲載し、「大連鴻峰社」が人体標本の調達源だと述べている。

当展示会は、人体のすべて、またその一部、臓器、胎児、胎芽などを展示しており、それらは中国人あるいは中国に居住する人たちのものです。皆様をご覧になる人体の一部、臓器、胎児、胎芽については、弊社は完全に中国のパートナーに依存しており、彼らが中国の監獄に監禁されていた間に殺害されたわけではないということを、我々は独自に確認することができません。

中国政府からの保護 (p.399)

2006 年 7 月 17 日、中国政府の各省は共同で、「人体の出入国および人体処理の管理規定」を発表し、人体の貿易や遺体を利用した商業活動を禁止した。この規定は、2006 年 8 月 1 日から有効となった。

しかし、隋鴻錦の人体標本ビジネスは規定による影響を受けず、それどころか、彼らは成長し、伸び続けた。2010 年 11 月 23 日、大連のテレビ番組は次のように報道した。「大連鴻峰社は、世界中の著名な博物館 100 箇所以上とビジネスを行い、同社の年間収益は 2 億元に上る」

写真：大連鴻峰社が主催する「生命の奥秘」の展示の一部。(左から) 恋人たち、胎児、母親と胎児の標本



2008年12月15日、大連鴻峰社は大連市政府から「先端技術会社」のひとつとして選ばれ、税金優遇措置を受けている。2009年5月、大連鴻峰社は、「生命の奥秘博物館」をオープンし、「生命の始まりを見ることができる世界初の総合的な博物館です」と謳っている。隋鴻錦によると、展示会は「中国財政省と中国科学協会から資金援助を受け、その評価は非常に高く、さまざまな省と地方政府のリーダーたちからサポートを受けた」という。

第六章 法輪功学習者 (p.408)

医療分野で臓器移植が始まったのは、1960年代である。一方、中国において臓器移植産業が飛躍的に発達したのは1999年以降である。この時期はちょうど、法輪功学習者に対する迫害が始まったころである。

1999年7月までに中国公安局が行った調査によれば、少なくとも7千万人の人たちが法輪功を学習していた。1999年7月20日、中国共産党のトップは法輪功を根絶するという撲滅キャンペーンに踏み切った。

行方不明者

迫害が始まった初期から、法輪功学習者たちは地方政府、北京請願所、天安門広場へ赴き、請願を行ってきた。北京市政府へ請願に訪れた人の数は、2000年から2001年の間にピークをむかえる。

北京の公安局は、2001年4月までに、830,000人の法輪功学習者たちを登録し、逮捕したと報告した。この数字は、警察に身元を明かさなかった学習者たちの人数を含まない。大多数の学習者たちは、彼らの家族や同僚、居住地の人たちに被害が及ぶことを恐れ、身元を明かさなかった。身元不明とされた学習者たちは、居住地へ送り返されることはなかった。

中国司法部の報告書によると、中国には 670 箇所の刑務所があり、150 万人以上の囚人を収容している。その他、2013 年に廃止されるまで、300 箇所の強制労働キャンプがあった。2009 年に出版された書籍『Laogai: The Machinery of Repression in China』によると、強制労働キャンプには 3 百万人から 5 百万人の人たちが収容されていた。

中国問題に関する米国連邦議会・行政府委員会は 2008 年の年間人権報告の中で、国際的な専門家たちは、強制労働キャンプに収容されている人たちの半分は、法輪功学習者であるとしていると報告した。イーサン・ガットマンは、2001 年において、強制労働キャンプに収容されていた人数の半分は法輪功学習者であり、長期的に、徐々に 15%から 20%ずつ減っていき、今ではほぼ 500,000 人から 1,000,000 人の法輪功学習者が収容されていると推定している。

逮捕された数多くの法輪功学習者を収容するため、中国全土で多くの施設が拡大され、建設されてきた。中国共産党は更に、軍部や秘密部隊の施設を利用し、法輪功学習者を収容した。収容される学習者たちは法律上、また実質的に、失踪したことになる。

根絶政策(p.409)

2000 年 8 月 21 日、中国公安部は電話会議の中で、法輪功を 3 ヶ月で根絶するという新しい命令を各方面へ通達するよう指示した。

湖北省の杜導斌（ト・ダオビン）は、2003 年 5 月、610 オフィス（法輪功弾圧を担当する共産党の機関）、は、次のような命令を受けたという。「法輪功学習者の扱いについては、法律による規制はなく」、「法輪功学習者が殴打によって死亡しても、それは自殺とみなされる。遺体は身元の取り調べを受けずに火葬される」

1984 年 10 月 9 日、最高人民法院、最高人民検察院、公安局、司法省、衛生省、民政省は共同で、「死刑囚の遺体および臓器の利用についての暫定的な規制」を発表した。それによれば、下記の条件のもとでは、囚人の遺体と臓器を利用することが可能になる。

- 1) 遺体の引き取り手がない、あるいは家族が引き取りを拒否した場合
- 2) 処刑される囚人が、自発的に自分の身体や臓器を医療や健康のために提供した場合
- 3) 家族が同意した場合

この法律には最初、抜け道があることを認識されなかったとしても、この法律により、囚人自身の、あるいは家族の同意がなくとも、遺体の引き取りがなければ臓器を利用できること

になる。法律は、臓器を利用するために囚人が処刑されるかどうかについては言及していない。

法輪功学習者の場合、当局は「暫定的な規制」を用いて、亡くなった学習者たちの家族が遺体を引き取ることを妨げており、それがさらに強制的な臓器狩りや遺体の売買に拍車をかけている。当局は、法輪功学習者が恣意的に労働キャンプに収容された時点で、必ずしも家族に彼らの居所を通知するわけではない。更に、多くの学習者たちは、家族、友人、同僚や居住地の隣人たちを守るために、拘束されても身元を明かさない。当局は身元を明かさない学習者たちについては家族の居所も分からないため、連絡することができない。

これらの要素が絡みあい、法輪功学習者たちから、彼ら自身あるいは家族の同意のないまま、また死刑囚であるかどうかにも関わらず、臓器を摘出することが可能になった。更に、臓器狩りに対する「免許」は多数存在している。身元を明かさないまま拘束されている法輪功学習者の数は膨大だからである。

血液検査

収容所では、法輪功学習者たちは頻繁に血液検査と身体検査を受けさせられる。一方、他の囚人（ウイグル人、チベット人、一部の家庭教会の信徒を除く。彼らもターゲットになっているからである）は、それらのテストを受けていない。

イーサン・ガットマンは、労働キャンプや刑務所に収容されていた 50 人以上の法輪功学習者たちをインタビューした。インタビューの中で、彼らの多くは強制的に血液検査や珍しい身体検査を受けさせられたと供述している。同様の証言は、マタスとキルガーの報告書「血まみれの臓器狩り」にもある。また、明慧ネットというウェブサイトには、多くの法輪功学習者が同様の検査を受けたという目撃証言が掲載されている。それによれば、学習者たちの遺体が家族の同意なしに火葬され、数万人の法輪功学習者たちが移送され、失踪しているという。

臓器の配給 (P.410)

中国の臓器移植が飛躍的に伸びたころは、当局発表の数字によれば年間 1 万件である。しかし、そのころ中国には臓器の配給システムすら存在していなかった。

2009 年 9 月、『大衆衛生報』は、黄潔夫が中南大学湘雅医学院で臓器移植の立法化に関する講演を行ったことを報道した。黄は、臓器分配ネットワークを構築すれば、臓器分配や管

理の混乱を解決でき、衛生部の介入により、臓器分配ネットワークが県、省、国家レベルへと徐々に確立されていくと提案している。また、ネットワークを構築することにより、

「臓器供給源を行ったり来たりする輸送の手間を省き、手術費用を半分にすることができる。また、待機期間を縮小できることから、臓器移植のクオリティーも向上するだろう」という。

大众卫生报
湖南日报报业集团主办

2003年9月24日 星期三 | 1版 | 2版 | 3版 | 4版 | 5版 | 6版 | 7版 | 8版

站内检索 精确检索

国内外专家汇聚长沙器官移植法呼之欲出

http://www.hnol.net 2003-09-24 15:53:00

Domestic and Overseas Experts Gather in Changsha Organ Transplant Act is Coming

"With the participation of the health administrative department, a donor allocation network at the provincial, regional and national levels could be gradually formed. The deployment of the network would prevent back-and-forth transportation of source organs and cut the surgical cost by half. Also, transplant quality can be greatly improved, because the waiting time can be shortened."

专家们认为，立法将从根本上规范供体被合理利用，在法行... 供体将公平地移植到最适合的病
人身上，由医生根据配型的最佳程度进行调配，其次，彻底解决了目前存在的器官调配和管理上较为混乱的
现象，可在卫生行政部门参与的情况下，逐渐形成省、区域和全国的管理网络，发挥信息共享，资源合理利
用与配置的作用，并且，手术量的上升将提高整个移植医学界的技术发展。更为重要的是，供体市场规范的
器官移植手术极大地为病人节约了医疗费用，不用往返运输供体将使手术成本下降一半，且移植质量也因为
等待移植时间的缩短而大大提高。通过立法一方面可以鼓励、提倡人体器官捐献，规范器官移植行为；另一
方面，又可有力打击人体器官买卖或变相买卖。

2006年3月31日、軍総後勤部に所属する瀋陽の老軍医は大紀元時報に対して、次のよう
に証言している。

特別な列車を使えば、5,000人ほどの人間を移送するのは一日でできる。
私は、天津から吉林までの移送の様子を目撃した。7千人を一晩で運ぶ
ことのできる列車があり、嚴重に武装した保安要員が護衛していた。

明慧ネットは、中国全土の法輪功学習者たちが同様の形で移送されたという経験談を伝えて
いる。

第七章 終わりに (P.428)

提案

中国政府の公式発表によれば、臓器移植件数は、幾年かの高い数字を除けば、年間 10,000 件である。それを鑑みれば、法輪功への迫害が始まってからの臓器移植の総合計は 150,000 件から 200,000 件にのぼる。この数字は、すべてのNGO団体が推定する死刑囚の人数をはるかに上回る。従って、この臓器移植件数に間に合うだけの臓器供給源として、法輪功学習者たちを殺害しているのだという説明がつく。

私たちは、この報告書の中で、実際の臓器移植件数は当局の数字を遥かに上回り、その数値の数十万件にも多く上ると指摘した。組織的な情報の隠蔽により、臓器移植件数を正確に特定することは不可能である。しかし、私たちは確信を持って、スピリチュアルな理念を基礎とする、完全に無実の中国の気功愛好者たちが、臓器のために大量虐殺の被害に遭っていると言っている。更に、この虐殺は中国共産党が先導して行っているのだと断言できる。

最終的に、中国がどこから臓器を入手したのかについて、私たちが説明する義務はない。臓器供給源に対する説明責任は、中国にある。拷問と宗教的不寛容に関する国連の特別報告官は、2007年と2008年、中国が行ったと主張する臓器移植件数と、臓器移植供給源との数のギャップについて、中国政府に説明を求めた。2007年、中国政府はそれについて沈黙を守り、2008年にはプロパガンダで、2015年には作り話で応酬した。

人体細胞、組織および臓器移植に関する指導原則1（WHO）は、臓器移植を目的とする臓器摘出については、ドナーの同意が必要であるとしている。指導原則10は、臓器移植のトレーサビリティが必要であるとし、指導原則11は、ドナー活動に対して、透明性と監査にオープンであることを求めている。

欧州議会は2013年12月、中国の臓器狩りを非難する決議案を可決した。この決議案では、欧州連合が中国の臓器移植に対して、完全に透明性のある調査を行うことを求めている。

国際連合人権高等弁務官事務所は2013年、中国における臓器移植の濫用について調査を求める請願書を受け取った。請願書には、150万人近くの署名が添えられていた。中国は拷問禁止条約に署名しており、定期的に専門委員会に報告をしなければならない。拷問禁止委員会は2008年、中国政府に対し、「政府は、法輪功学習者たちが拷問に遭い、臓器移植のために利用されているという主張に対し、直ちに独立した調査を行うか、それを委任しなければならない。また、それら濫用に関与する者が起訴され、刑罰が与えられるよう適切な対策を講じなければならない」と提言した。しかし、7年の間、中国政府は独立した調査の実施、

またそれを委任することなど皆無であった。2015年、委員会は次のような提言を繰り返した。「国家（中国）は、一部の法輪功学習者たちがこのような（同意のない臓器摘出）被害に遭っている可能性があるという主張について、独立した調査を委任しなければならない」

私たちは、このような状況の中で、実際に何ができるだろうか？この質問については、別の問題—奴隷、別の国—ベルギー、異なる時期—20世紀初期、別の人間—エドモンド・モレル（貨物の発送人）という別の事件から答えてみたい。

エドモンド・モレルは、コンゴからベルギーへ送られた輸送貨物を見て、ベルギー王・レオポルドが奴隷制度に関与していることを発見した。コンゴへ輸送される貨物には、鉄砲、武器、爆発物などがあり、それらは国やエージェントの手に渡った。貨物の中に商業品は含まれていなかった。一方、コンゴから輸送された商品は象牙やゴムなどであり、それらはベルギーから発送された貨物より高価なものばかりだった。当時、コンゴの人たちは貨幣を使用することは禁じられていた。エドモンド・モレルは不思議に思った。ベルギーがどうやってコンゴで象牙やゴムを購入することができたのか？彼は独自に研究し、1901年に出版した書籍で、象牙やゴムの生産に従事していた人たちは賃金を受け取っておらず、従って彼らは奴隷であると結論づけた。

彼が述べた結論は、注目に値する。なぜならば、彼が主張する奴隷制度についての目撃証拠は何もなかったからである。証拠は輸出入書類だけだった。当初、彼の論文は当局から否定された。しかし、彼の主張は正しかった。

当時、多くの人々がベルギー政府を刺激することを懸念し、問題を追及しなかった。しかし、イギリス政府はコンゴ駐在の領事だったロジャー・ケイスメントに委任し、独自に調査して報告するよう要請した。ケイスメントは1904年、コンゴを三ヶ月ほど回り、報告書を書き上げた。それは、ベルギー王レオポルドの再三の否定にも関わらず、コンゴには、まぎれもなく奴隷制度が存在しているという結論だった。

この話は、私たちに何を示しているのだろうか。今日、中国で実施されている臓器移植の数と、中国政府が主張しようとしている臓器供給源、つまり死刑囚と自発的な臓器ドナーの数には大きな矛盾がある。それはまるで、20世紀初頭にコンゴへ送られた貨物と、ベルギーへ送られた貨物のようなものである。今日の中国の矛盾は、過去のベルギーの矛盾と同じように、人権侵害を示すものである。独立した調査の必要性も、同じくらい大きいといえる。中国には「紙で火を包むことはできない」（真相は包み隠せない）という言い方がある。このような長期にわたる国家ぐるみの虐殺を、永遠に隠し通せるものではない。今日、私たちがしなければならないのは、モレルの書籍が出版された後と、ケイスメントの報告書が出される前

に、奴隷制度について関心を持っていた人たちが行ったこと、つまり説明責任と調査を要求することである。

人権委員会の国際連合人権理事会の前任者は、中国の人権問題に関する決議案を、採択をしなくとも、それをしっかりと見ていた。中国政府は相互に人権問題を話し合うということを提案し、その決議案を廃止させるよう交渉した。決議案の支持者たちは、この邪悪な取引を呑み、数年にわたって、この対話を続けてきた。カナダの専門家、チャールス・バートンは2006年4月、カナダ外務省の要求によって実現したカナダ・中国間の対談について、次のように評価している。対談に参加したのは下級官僚ばかりであり、会議の大半は、彼らは単に台本を読むだけであった。更には、その台本の内容は、毎年同じだったという。中国で実際に起こっていることと、これらの対談にはなんら目に見える繋がりが無い。中国共産党の上層部には、対談を真剣に行おうという姿勢がない。彼らは、中国が外国人に、国内政策に対して答えなければならないのは侮辱以外のなにものでもないと考えているのである。

カーティン・キンゼルバックは、欧州連合・中国の人権対談において、同様の見解を示している。

ここ数年、(中国官僚は)、人権対談のプロとなりつつある。閉ざされた空間で行われる定期的な密談により、少数の中国官僚は、人権についての質問、非難、提案に対して、どのように効果的に答えればよいのかを集中的に研修しているのだ。

このような対談が無益であることは、法輪功の例からも分かる。私たちが話した多くの外国官僚たちは、定期的に法輪功に関する問題を提起しても、失敗に終わると話している。彼らによると、相手は、質問に応じないか、あるいは失礼な態度をとってくるという。このような対談の結果、法輪功への迫害は少しも減じることがなかったのである。

アメリカ、カナダ、イギリスと他のすべての国々は、このような対談から手を引き、中国における人権侵害の問題を再度、国連人権理事会に提出すべきである。中国共産党に調査するよう要求するのは愚か者のゲームである。欧米諸国は、国連機関を使って調査するべきである。効果的だった調査例としては、スリランカの内戦が終わる頃の2002年2月から2009年5月に、国内で何が起こったのかを調べたことである。2011年11月、スリランカ政府は、ごまかすための言い訳に過ぎない報告書を提出した。2013年3月、国際連合人権理事会は米国主導により決議案を可決し、スリランカに対し、内戦が終結していた数年間に行われた、「国際人権法、および国際人道法に違反したとする告発に対して、独立した、信頼できる調査を実施すること」を要求した。スリランカ政府がそれを行なわなかったため、理事

会は 2014 年 3 月、米国主導により再び国際連合人権高等弁務官事務所に対して調査を行なうよう決議案を提出した。決議案は、内戦が終結しようとしていた数年間、「スリランカの両党に、人権に対する濫用と深刻な違反があったとする告発に対し、包括的な調査を行なう」ことを国際連合人権高等弁務官事務所に要求した。調査は実施され、実のある報告書が 2015 年 9 月に発行された。

この臓器狩りの悲劇に対する正義の仲裁人は、アメリカだけではない。WHO でもなく、また国際移植学会でもない。正義を行使するのは、愛する人を失った中国全土の家族である。彼らの声を聞くまで、アメリカは少なくとも、その信念に従うことだ。最初のステップとしては、アメリカ自身の道義的責任の衛生を最低限保つことである。

私たちが諸外国で証言する時によく聞かれるのは、「わが国から、どれだけの人々が臓器移植のために中国へ渡ったのか？」という質問である。それに対する答えは私たちにはなく、またその過失も私たちにはない。むしろ、その過失は深刻に誤解している医療関係者たちにあるだろう。エイズ患者と彼らの雇用主の間に医療のプライバシーが必要であることは明白だが、それには順応性がなければならない。司法の世界では、銃による外傷が認められた場合、医療のプライバシーはなくなる。それではなぜ、世界の医療分野の権威たちは、中国の臓器供給源に対して、厳密に医療のプライバシーを守っているのだろうか。それは、潜在的な極悪犯罪に十分値するのではないだろうか？

実際、良心の囚人から様々な臓器を受け取ることができるのは、世界中で二箇所だけである。中国と、最近ではイスラム国（IS とも呼ばれる）が支配する地域である。新しい臓器と共に帰国する患者たちは、免疫抑制剤に頼らざるを得ない。それでは、なぜ外科医や国家は、このサービスを悪用しているものが誰であるのか、推定することができないのか？

外国にいる者が、中国やイスラム国が支配する地域へ渡り、臓器を受け取るということは、現在起こっている人道に反する罪に参与することになるかもしれないのである。それは非常に下品なことであり、医療に携わる人たちが防塞となって患者に参与させないようにすべきである。また、官僚と医療関係者は、厳格なプライバシー義務の例外措置を適用できるように推し進めることである。

一方、国家は単純に供給を制限することで、この破壊的な中国臓器狩りの仕組みを停止することができる。中国が、世界が求めている包括的な説明をするまで、国家はイスラエル、スペイン、最近では台湾の例を倣い、IS が支配する地域および中国への臓器移植ツアーを禁止すべきである。

最後に、人権尊重を推進する活動は政府だけのものではなく、また主導でやるものでもない。

これは、皆がそれぞれ各地域でやるべきものであり、人権を有するすべての人の活動である。臓器のために無実の中国人が殺されているという事実は、我々全員に関係しているのである。

また、臓器移植の濫用について何か知っている人たちは、それを知らせてほしい。必要であれば匿名で、ChinaOrganHarvest.org、あるいは Doctors Against Forced Organ Harvesting（英語と中国語可）または、EndOrganPillaging.org（英語のみ）へ連絡することを強く勧める。

結論（p.434）

この報告書は、下記の結論に達した。

- a. 中国における臓器移植の件数は、中国政府の公式な数字をはるかに上回る。
- b. 膨大な量の臓器の供給源は、無実の人たちを殺害して成り立っている。すなわち、ウイグル人、チベット人、家庭教会の信徒たち、そして主に、スピリチュアルな健康法である法輪功の学習者である。
- c. 中国における臓器収奪は、共産党、国家機関、医療システム、病院すべてが共謀する犯罪である。
- d. 国際的な政府間のコミュニティーは、独立した機関を設けて、中国における臓器移植の濫用を調査すべきである。
- e. 世界の臓器移植のコミュニティーは、中国臓器移植のコミュニティーと提携するならば、彼らが基準に達した時のみとする。
- f. 中国への臓器移植ツアーは、医療の守秘義務を理由として情報が遮られないようにすべきであり、公然と監視すべきである。
- g. 中国が過去と現在の臓器狩りに関する完全な調査を受け入れるまで、いかなる国家も、臓器移植のために中国へ渡航することを国民に許可してはならない。